

船舶事故調査報告書

平成23年12月1日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 石 川 敏 行

事故種類	乗揚
発生日時	平成23年1月7日 16時10分ごろ
発生場所	東京都大田区多摩川 大田区本羽田2丁目付近 東京湾アクアライン川崎浮島換気所灯から真方位296° 3.5海里付近 （概位 北緯35° 32.6′ 東経139° 43.9′）
事故調査の経過	平成23年3月17日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	砂利運搬船 第二十八 ^{ほうえい} 豊栄丸、129トン 135856、株式会社系井商会 35.40m×8.00m×3.00m、鋼 ディーゼル機関、257kW、平成8年8月
乗組員等に関する情報	船長 男性 55歳 四級海技士（航海） 免許年月日 昭和61年9月11日 免状交付年月日 平成18年8月9日 免状有効期間満了日 平成23年9月10日
死傷者等	なし
損傷	船底に亀裂
事故の経過	本船は、船長ほか1人が乗り組み、揚げ荷のため、川崎市川崎区港町の物揚場に向けて多摩川を遡航中、平成23年1月7日16時10分ごろ、大田区本羽田2丁目付近において、船底が川底に接触したような衝撃を感じた。 本船が乗り揚げた場所は、岩場（以下「本件岩場」という。）であり、船長が、付近に設けられた鉄塔等からの距離で本件岩場の位置を把握していたものの、その位置については目視で確認していた。 船長は、川の流れがあり航路も狭いので、油の流出等がないことを確認して航行を続け、16時40分ごろ目的地である物揚場に着岸した。 本船は、翌8日、揚げ荷役を終えて千葉県木更津市木更津港へ向けて出航し、11時30分ごろ同港において積み荷役を終えて港内待機の際、船首部が沈み、船首船底部からの浸水が発見された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風力 3、視界 良好 海象：潮汐 上げ潮の中央期
その他の事項	船長は、平成16年9月から本船を含む社船2隻で船長職を執っていた。また、多摩川において、過去に7回砂地に船底を接触させたことがあったが、浸水はなかった。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、大田区本羽田2丁目付近の多摩川を遡航中、船長が、本件岩場の位置を陸上施設からの距離で把握していたものの、その距離を目視で確認していたことから、本件岩場に乗り揚げたものと考えられる。 船長は、船底に亀裂が生じて浸水していることに気付かず、木更津港まで航行したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、大田区本羽田2丁目付近の多摩川を遡航中、船長が、本件岩場の陸上施設からの距離を目視で確認していたため、本件岩場に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。	
参考	今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 障害物に対する十分な避航距離を確保すること。 ・ 事故後の浸水及び損傷確認を徹底すること。	